

【特集 衆議院選挙を終えて 3】

二〇〇七年の参院選に緑の旗を

橋本久雄

かつて、社民党を市民政党に作り変えようと、土井さんの呼びかけで「市民の絆」という市民団体が作られました。社民党を中から変えようと運営委員として結成に参加しました。しかし、労組中心から市民運動などの連携に軸足を移すこの試みは見事に失敗しました。

私は社民党も含めて既成政党を批判する無所属……市民派の議員です。

それでも国政選挙の時には社民党に投票し、時には社民党の候補者を応援してきました。こうした投票行動をする地方議員や市民はたくさんいます。ほかに選択肢がないからです。

前回の参議院選挙もそうでしたが、今回の衆議院選挙を受けて、「社民党や共産党も含めた護憲派、緑派などの大連合を」と言う人がいます。しかし、護憲の政党が社民や共産党だとすれば、緑の政党だけがありません。選挙は組織や資金がなければできません。共産党はともかく、現状では結局、社民党といかに関わるかということになってしまいます。しかし、これでは新しい政治や社会は実現できません。社民党でもなく、もうひとつの選択肢を私たち自身の力で作り出すこと。緑

の政党ができて初めて共闘が現実味を持ちます。

既成政党に批判的な無所属・市民派の地方議員や市民のネットワーク、虹と緑の五〇〇人リスト運動は二〇〇一年、オーストラリアで開かれたグローバル・グリーンズ世界大会に神奈川ネットワークと共に参加しました。

既成政党とは違う合意形成の仕方や明るく伸びやかな運動。とくにエコロジー、社会的公正、底辺民主主義、非暴力を基本に脱経済成長至上主義、脱物質主義を掲げ、まったく新しい政治や経済、社会を実現しようとする姿は非常に刺激的でした。これが日本に緑の党を作る具体的な試みの始まりでした。

虹と緑は昨年、中村敦夫さんを中心とするみどりの会議と共同で参議院選挙を闘いました。残念ながら当選者を出すことは出来ませんでした。それから一年、この試みを次の国政選挙につなげて行こうと各地で議論が行なわれてきました。また、こうした動きを調整する「みどりのテーブル」がつけられました。

二月には京都でアジアの緑の党やグループが集まり「アジア太平洋みどりの京都会議」が行なわれ、アジア太平洋グリーンズネットワークが結成されました。

九月三、四日、新潟で虹と緑の政策研究会&総会とみどりのテーブルの臨時総会が行な

なわれ、二〇〇七年の統一地方選挙と参議院選挙の取り組みについて議論しました。

「無所属・市民派では次の選挙を闘えない。自分たちが何者かを明らかにすることが大切だ。緑の政治を実現するグループとして登場しよう」などの意見が出されました。生活者ネットワークにも呼びかけ、緑のローカルマニフェストと緑の共同候補者リストを作ることを確認しました。

みどりのテーブルでは参議院選挙にチャレンジャーすることと、そのための基金の呼びかけを行なうことを確認。三〇〇〇人を目標に会員拡大を行ないます。ハードルは高く、選挙区九人、比例区一人でも供託金だけで三三〇〇万円が必要です。

現在、一人の地域でみどりの地域政党をつくる取り組みが行なわれています。こうした地域政党を各地につくりながら、その連合という形で参議院選挙にチャレンジしようと考えています。

組織嫌いな私たちは人びとと連携し国政に関わることに臆病でした。だからといってあきらめる訳にはいきません。政党を作ることはもちろん大変なことです。しかし、そうした困難さに私たちがまず立ち向かわなければ何も変わらないことを私たちは知っています。二〇〇七年、私たちは臆することなく楽しく緑の政党をつくり国政にチャレンジします。

(はしもと・ひさお、小平市議会議員、みどりのテーブル運営委員)